



南海医療センター附属介護老人保健施設
施設長 森本 章生



新年あけましておめでとうございます。

昨年4年に一度の冬季オリンピックが韓国の“平昌（ピョンチャン）”で開催され、日本選手が活躍しとても気持ち良い思いをしたことを思い出します。流行語大賞も、その大会で活躍し銅メダルを獲得した日本女子カーリング選手たちの“そだねー”という言葉が選ばれました。さらにスポーツの世界では、卓球・バドミントン・テニス・水泳など、若い日本選手の活躍が目覚ましい年だったと感じました。一方、昨年の漢字“災”に表されるように、大阪や北海道での地震、豪雨や台風による被害、夏の猛暑など私たち人間の力ではどうにもならない自然災害が少し増えてきているように思います。今後30年以内に“南海トラフ大地震”が発生する可能性があり、そうなると佐伯市も甚大な被害を被ることとなると予想されます。そのような災害に備え、昨年8月4日内閣府の主催する大規模災害訓練において、佐伯市が被災地となった想定での訓練に参加しました。その中で、当老健施設においても災害時の対応や老健施設機能の維持を考えると強く感じ、日常の老健施設としての役割の継続はもちろんのこと、災害時にも対応でき機能継続できる老健を目指していきたいと考えています。

本年が皆様にとって良い年でありますことを祈念するとともに、今年も南海老健をよろしくお願い申し上げます。

副施設長 神崎 啓慈



新年明けましておめでとうございます。皆様には、健やかに新春を迎えられたこと、お慶び申し上げます。また、旧年中はひとかたならぬご厚情を頂きありがとうございました。私たち職員一同は、2019年もJCHOの使命の一つである「地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支えます。」をモットーに、「利用者様やご家族の皆様喜んで頂ける」ということを目標としています。地道に、ひとつずつ、目の前のできることから取り組み、サービス向上に尽力して参ります。本年も変わらぬお引き立ての程よろしくお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

リハビリテーション室 室長
理学療法士 富松 満代



新年明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。皆様のご協力のもと、共に歩んだ一年に深く感謝いたします。さて、今年はいよいよ新年号となります。平成の時代は阪神淡路大震災に始まり、想像を越える大災害に幾度となく襲われました。佐伯を襲った水害も記憶に新しいところです。これまでの経験を教訓に、今後必ずくるであろう大災害に対し、覚悟を持って対策を練って置く事は喫緊の課題と考えます。また我々の住む地域がより住みよい地域となる為に、今一度初心に帰り4つの「助（自助・互助・共助・公助）」について意味を確認しておこうと思います。まず「自助」は自発的に自身の課題を解決する力。「互助」は家族・友人・近隣の方々等お互いが解決し合う力。「共助」が制度化された相互援助のこ（介護保険制度等）。「公助」は自助・互助・共助では対応できない事に対して最終的に必要な生活保障を行なう社会福祉制度のこと。この4つの「助」を踏まえ、今年も『リハビリテーション』の在り方について探求して行こうと思います。本年もどうぞよろしくお願い致します。

南海居宅介護支援センター
管理者 國部 昭夫



謹んで新年のお慶びを申し上げます。居宅介護支援センターもおかげ様で今年開設10周年を迎えることができます。これもひとえに皆様のご支援やご協力の賜物と深く感謝しております。昨年も色々な出来事がありましたが、昨年の世相を表す漢字一字『災』の通り、やはり記憶に残るのは全国各地で起こった災害です。個人的にも昨年1年を通して「災害時における介護支援専門員の役割」について色々と考え取り組んだ1年間でした。住み慣れた地域で安心して生活できる地域づくりとして2025年までに「地域包括ケアシステム」の構築が目標とされております。誰もが災害は避けたいところですが、いざとなった時にこのシステムが災害時においても役立つものとなるよう介護支援専門員として関わっていきたく思います。新年早々難しい話になりましたが、今年も皆様に愛され信頼される事業所を目指し日々精進して参る所存です。今後とも変わらぬご愛顧を宜しくお願い申し上げます。

看護師長 久保田 忍



新年あけましておめでとうございます。昨年中は利用者様やご家族様、そして地域の皆様より、温かいご支援やご協力を頂きありがとうございました。昨年は、台風や地震、豪雨などの自然災害が日本各地で発生しており、地域の介護施設も大きな被害を受けています。このことから、私共の施設も、地震や風水害を想定した訓練や備蓄品の準備など、災害に強い施設をつくるための活動を始めています。また、施設では昨年より、地域の方への介護に関する情報発信として、施設職員による「出前講座」を開催しております。現在、月に1度のペースですが、毎回好評を得ています。今年は講座内容のレパトリーを増やしていきたいと思っています。これからも、地域に根差し、地域を支える介護を実践できる施設として、皆様に選ばれるよう努力して参ります。今年もよろしくお願い致します。

管理課 課長補佐 岩木 功



新年明けましておめでとうございます。昨年のご利用者の方々やご家族様より暖かい支援やご理解を贈り厚く御礼を申し上げます。新年を皆様と迎えることができたことを嬉しく思います。今年が亥年ですが亥とされる動物の猪肉には万病さえも防ぎ、予防する力があるとされ無病息災の意味もあるとされています。又、風水でも無病息災でも目標に向かって猪進していく人を助ける火の神の化身とされています。皆さん今年是个々の成長と施設の成長に猪突猛進で1年間頑張りましょう。

介護士長 川井 忠明



新年明けましておめでとうございます。2018年は皆様にとってどんな年だったでしょうか。社会全体も明るいことや暗いこと、いろんな出来事が世間を騒がせていました。さて、2019年はどんな年になるのでしょうか。私自身、期待と不安が入り混じっておりますが、色々な方のお力添えのもとで少しでも成長出来ればと考え、そのことが老健のお役に立つことがあれば幸いです。至らないところが多々ありますが、今年もよろしくお願い致します。